

道路事業の再評価説明資料

〔国道8号 にゅうぜん くるべ 入善黒部バイパス〕

(一括審議)

令和2年9月

北陸地方整備局

目 次

1. 前回事業評価からの進捗状況及び変更点	P	1
2. 事業の投資効果	P	4
3. 再評価の重点化・効率化判定票（道路・街路事業）	P	5
4. 費用対効果	P	6
5. 事業の必要性、進捗の見込み等	P	7
6. 対応方針（原案）	P	8

別冊 費用対便益算出資料〔様式集〕

1. 前回事業評価からの進捗状況及び変更点

(1) 前回事業評価から事業実施状況

年度	主な経緯
平成16、21、24、27、29年度	事業再評価(指摘事項なし、継続)

(2) 事業の進捗状況

令和元年度末、金額は税込み

	全体	執行済額	進捗率	残事業費
事業費	約887億円	約707億円	80%	約180億円
うち用地費・補償費	約252億円	約251億円	99%	約1億円

※表示桁数の関係で一致しないことがある

○入善町榎山～入善町上野間において用地取得、道路設計、改良工事を推進。

(3) 今後の事業展開

- 現道拡幅区間である入善町榎山～入善町上野間の用地取得、道路設計、改良工事を推進し早期4車線供用を目指して整備を進める。
- バイパス区間の4車線整備については、交通状況を勘案しつつ、整備時期等を検討する。

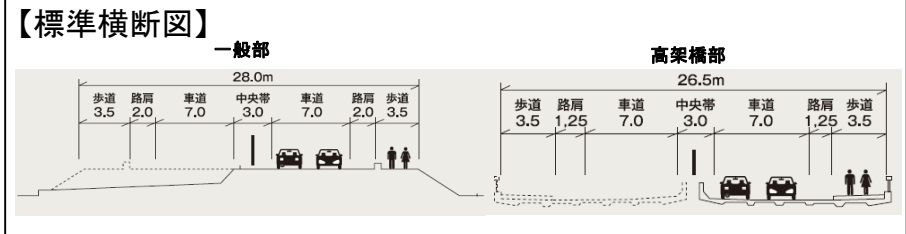


図1-3 標準横断面図



図1-1 広域図



写真1-1：富山市方面より田家交差点を望む



図1-2 位置図

【構造規格】

種級区分：3種1級
設計速度：80km/h

凡例

事業中間区間	---
暫定2車線供用済	---
アルミ製造拠点	■

1. 前回事業評価からの進捗状況及び変更点

(4) 前回事業評価からの変更点

➤ 現道下の路床支持力調査結果に伴う路床改良【+約18億円】

- 当初、現道部の舗装はオーバーレイ工法を計画していたが、令和2年度に路床部の地盤支持力を測定したところ、想定していた数値を下回っていたため、路床改良が必要となった。

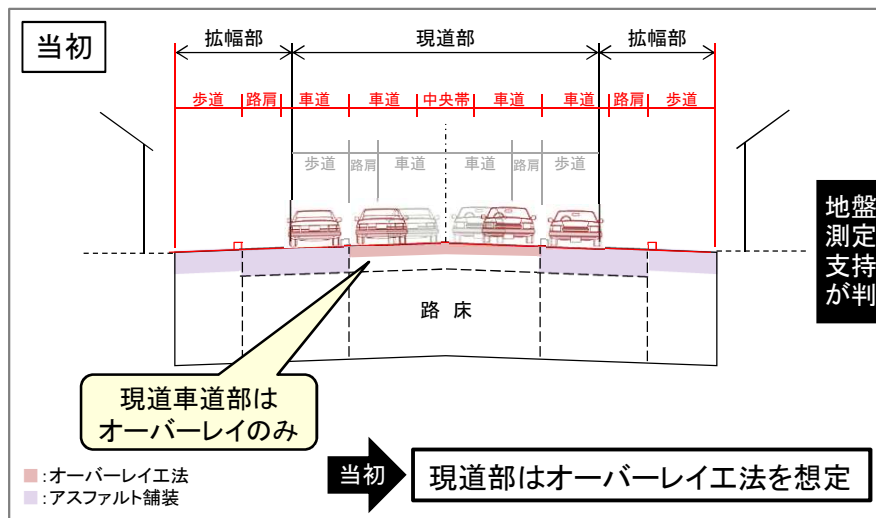


図1-5 当初想定

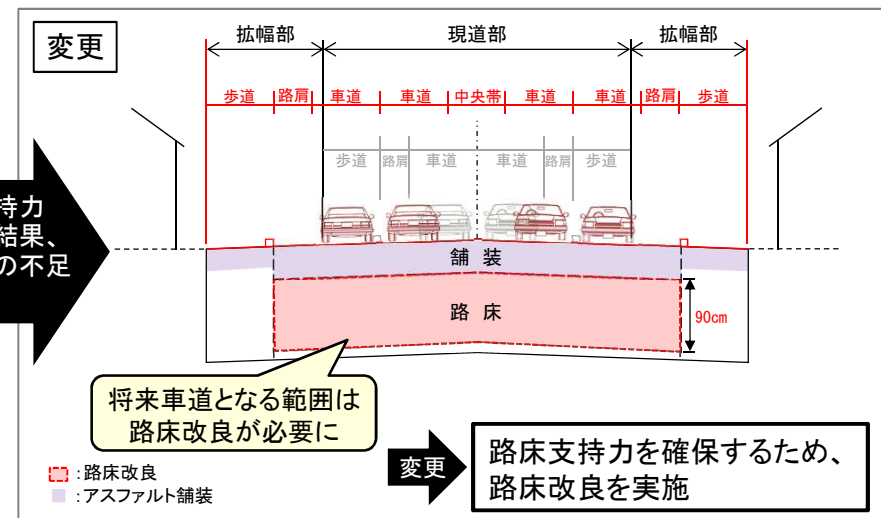


図1-6 変更後

1. 前回事業評価からの進捗状況及び変更点

(4) 前回事業評価からの変更点

➤ 車両用地下横断ボックス・地下横断歩道の変更・追加【+約12億円】

- 当初は平面交差点を計画していたが、教育委員会等との協議で要望があり、通学時の生徒や地域住民利用者の安全確保のため、3箇所地下横断歩道を追加・変更することとなった。
- また、当初は国道横断しない取付道路として計画としていたが、利用実態を踏まえ、機能補償として車両用地下横断ボックスを追加することとなった。

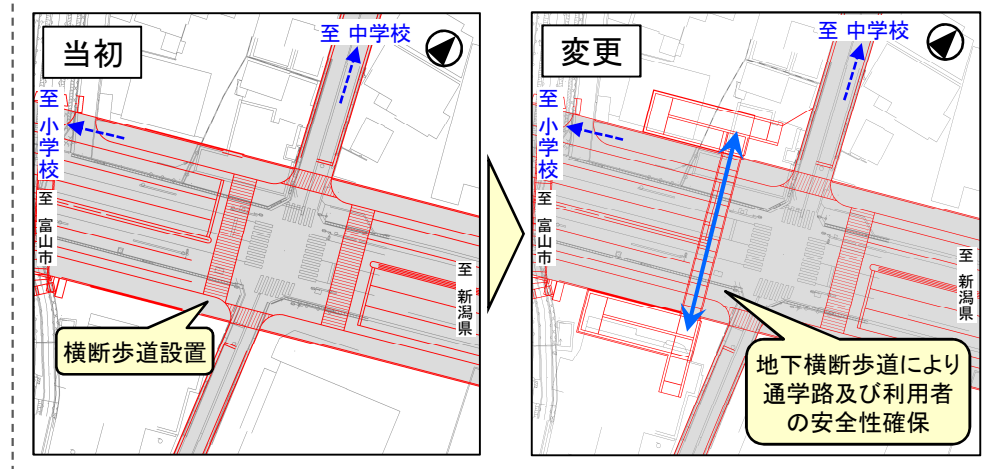


図1-7 地下横断歩道の追加

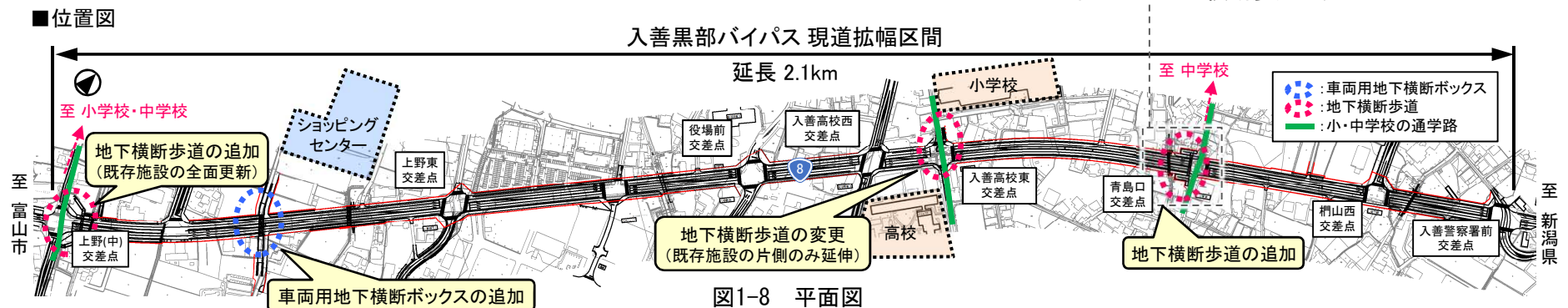


図1-8 平面図

(5) 見直し後の事業費

全体事業費： 約887億円 → 約917億円 (+約30億円、3.4%増)

2. 事業の投資効果

事業の効果等

(1) 便益に係る整備効果

① 走行時間の短縮

- ・ 入善黒部バイパスにゅうぜんくろべの整備により、円滑な走行環境が確保され、事業区間の走行時間が約9分短縮するとともに、渋滞損失時間は年間あたり約43万人・時間の削減が期待される。

② 交通事故の減少

- ・ 入善黒部バイパスにゅうぜんくろべの整備により、通過交通や大型車がバイパスに転換することで、旧国道8号うお（県道魚津入善線うづにゅうぜん）においては安全な走行環境が確保されるとともに年間約66件の死傷事故件数の削減が期待される。

(2) その他の効果

① 国際拠点港湾（伏木富山港ふしきとやま）へのアクセス向上

- ・ 入善町にゅうぜんまちや黒部市くろべの工業団地から伏木富山港ふしきとやまへのアクセス向上が期待される。

② 地域産業の活性化・物流効率化

- ・ 事業区間周辺には富山県の主要産業であるアルミ製造業の拠点が立地しており、バイパス沿線に企業団地が立地するなど、地域産業の活性化・物流効率化により生産性向上に寄与することが期待される。

③ 救急医療施設へのアクセス向上

- ・ 救急医療施設くろべ（黒部市民病院）への搬送時間が短縮し、救命率の向上に寄与することが期待される。

④ 夜間騒音の低減

- ・ 入善黒部バイパスにゅうぜんくろべの整備により、旧国道8号うおづにゅうぜん（県道魚津入善線）の交通量が減少するため、夜間の交通騒音が低減し、沿道環境の改善が期待される。

4. 費用対効果

事業名	国道8号 <small>にゅうぜんくろべ</small> 入善黒部バイパス						
起終点	自：富山県下新川郡入善町 <small>しもにいかわ にゅうぜんまちくぬぎやま</small> 桐山 至：富山県魚津市 <small>うおづ えぐち</small> 江口				延長	16.1km	
事業概要	国道8号入善黒部バイパスは、交通渋滞の緩和、広域幹線ネットワーク充実強化などを目的とした延長16.1kmのバイパス事業である。						
平成2年度事業化	平成2年度都市計画決定			平成5年度用地着手		平成6年度工事着手	
全体事業費	約917億円	事業進捗率 (令和元年度末)	80%	供用済延長	14.0km (暫定2車線)		
計画交通量	18,600～38,400台/日						
費用対効果 分析結果	B/C	総費用	(残事業) / (全体事業)	総便益	(残事業) / (全体事業)	基準年度	
	(事業全体) 1.1 (残事業) 3.5	212/1,410億円 事業費：146/1,268億円 維持管理費：67/142億円		742/1,563億円 走行時間短縮便益：662/1,286億円 走行経費減少便益：59/221億円 交通事故減少便益：21/56億円		令和2年度	
感度分析の結果							
(事業全体)	交通量： (-10%～+10%) B/C=1.001～1.2	(残事業)	交通量： (-10%～+10%) B/C=3.1～3.8	事業費： (+10%～-10%) B/C=1.1～1.1	事業費： (+10%～-10%) B/C=3.3～3.8	事業期間： (+20%～-20%) B/C=1.1～1.2	事業期間： (+20%～-20%) B/C=3.3～3.6

※総費用、総便益とその内訳は、各年次の価格を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものの。

※総費用及び総便益の値は、表示桁数の関係で内容と一致しないことがある。

※費用対効果分析結果及び感度分析の結果の欄に係る数値は令和2年度評価時点。

※費用及び便益額は、10以上：整数止め、1.0より大きく10未満：小数点1桁止め、1.0以下：小数点2桁止めとする。

※費用対効果分析結果及び感度分析の結果は原則小数点1桁止め。ただし、四捨五入で1.0となる場合は、小数点2桁止め。

5. 事業の必要性、進捗の見込み等

事業の必要性等に関する視点

【事業を巡る社会経済情勢等の変化】

- ・ 前回事業再評価時以降、需要の見込みや地元情勢など社会情勢に大きな変化は無い。

【事業の投資効果】

- ・ 本事業の整備により「走行時間の短縮」「交通事故の減少」「国際拠点港湾(伏木富山港)へのアクセス向上」「地域産業の活性化・物流効率化」「救急医療施設へのアクセス向上」「夜間騒音の低減」などの効果が発揮される。

【事業の進捗状況】

- ・ 事業の進捗状況：用地進捗率99%、事業進捗率80%（令和元年度末）
- ・ 残事業の内容：用地取得、道路設計、改良工事

事業の進捗の見込みの視点

- ・ 現道拡幅区間である入善町^{にゅうぜんまちくぬぎやま}櫛山～入善町^{にゅうぜんまち}上野間の用地取得、道路設計、改良工事を推進し、早期4車線供用を目指して整備を進める。
- ・ バイパス区間の4車線整備については、交通状況を勘案しつつ、整備時期等を検討する。

コスト縮減や代替案立案等の可能性の視点

- ・ 建設発生土の有効活用や新技術の積極的な活用等により、コスト縮減を図る。

関係する地方公共団体等の意見

- ・ 地域から頂いた主な意見等：魚津市^{うおづ}などの3市2町の首長で構成される朝日滑川間国道・バイパス建設促進期成同盟会等より整備の要望を受けている。
- ・ 知事の見解：事業継続に同意する。なお、今後ともコスト縮減に努め、早期に効果が発現されるよう整備促進に格段の配慮をお願いしたい。

6. 対応方針（原案）

事業継続

（理由）

- ・当該事業は、現時点においても、その必要性、重要性は変わっておらず、事業進捗の見込みからも、引き続き事業を継続することが妥当であると考えます。